

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

〇ウイルス

米国疾病管理予防センター（CDC）、増加中のインフルエンザ A(H3N2)v ウイルス感染症について公表
公表日：2012/8/3、2012/8/10 情報源：米国疾病管理予防センター（CDC）
8月3日付け： http://emergency.cdc.gov/HAN/han00325.asp 8月10日付け： http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm61e0810a1.htm?s_cid=mm61e0810a1_e
<p>米国疾病管理予防センター（CDC）は、本年8月3日、10日に、インフルエンザ A(H3N2)v ウイルス[※]の感染情報を公表した。</p> <p>(1) 8月3日付け</p> <p>7月12日から8月3日までの3週間に、3州において、変異型ウイルスであるインフルエンザ A(H3N2)v ウイルスへの感染者16人が発生したとの報告があった。このウイルスは2011年7月に初めてヒトから検出された。多くの州で豚からも分離されている。2011年7月以降、この16人を含め、合計で29人がこのウイルスに感染しているが、全員がインフルエンザ A(H1N1)pdm09 ウイルスに由来するマトリクス遺伝子(M 遺伝子)を有する A(H3N2)v ウイルスに感染していた。M 遺伝子を有することによって、他の変異型インフルエンザウイルスに比べて、ヒトの間での感染性が高まると考えられている。過去3週間に確認された16人は、いずれも発病前に豚との接触があったと回答しており、うち15人は農産物品評会で接触していた。同定されたウイルスは、いずれも遺伝子的にほぼ同一であるが、それぞれの州における豚との接触が感染に関係している。異なる州における感染事例が疫学的に関連していることを示すものはない。</p> <p>A(H3N2)v ウイルス感染者16人の臨床的特徴は、発熱、せき、咽頭炎、筋肉痛、頭痛等であり、季節性インフルエンザの徴候・症状と同様である。入院した者や死者はいない。衛生・農業当局によりヒト・ブタ双方について調査が行われており、今後新たな症例が明らかになるとみられる。</p> <p>米国では、2007年から新型インフルエンザ A 型ウイルス感染症の届出が義務づけられた。これ以降、ヒトが動物由来ウイルスに感染することはまれで、毎年6人以下であったが、2011年になって14人が確認された。大部分が豚との濃厚接触が原因と考えられるが、2011年には数例のヒトからヒトへの限定的な感染【関連情報（海外）(3)を参照】も確認されていることから、特に A(H3N2)v ウイルス感染症例が確認された州・地域では、サーベイランスが強化されている。</p> <p>国民向け注意喚起（食品に関係しない注意喚起は省略）</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切に取り扱い、調理された豚肉又は豚由来製品を摂取することによってインフルエンザウイルスがヒトに伝播するという証拠はない。豚肉の適切な取扱い及び調理については USDA ホームページ上のファクトシートを参照願う。 <p>(2) 8月10日付け</p> <p>7月12日から8月9日までに、A(H3N2)v ウイルス感染者153人の届出があった（内訳：インディアナ州120人、オハイオ州31人、ハワイ州1人、イリノイ州1人）。感染者の年齢は、情報の得られた138人中128人（93%）が18歳未満で、成人は7%である（中央値7歳）。基礎疾患のある2人が入院したが、死者は出ていない。感染者全員が直接的又は間接的に豚との接触があったと回答している。大半が農産物品評会での接触であった。</p> <p>注）ブタの間で伝播しているインフルエンザウイルスが豚から分離された場合は豚インフルエンザウイルスと呼ばれるが、ヒトからも分離された場合には変異型(variant)ウイルスと呼ばれる。変異型ウイルスには、A(H1N1)pdm09 ウイルスに由来する M 遺伝子があるものもないものがあり、他の遺伝子変化についても同様である。世界的にヒトの間で伝播している季節性インフルエンザ A(H3N2)ウイルスは、ブタで伝播している A(H3N2)ウイルスとは抗原的にも遺伝子的にも大きく異なる。</p>

○関連情報（海外）

(1) 欧州疾病予防管理センター（ECDC）：米国での変異型インフルエンザ A(H3N2)v ウイルス感染者増加の疫学情報を公表（2012年8月9日）

- ・当該ウイルスに対する ECDC の見解を紹介している。（欧州において直ちにヒトの健康上の直接的な脅威となる可能性は低い。）
- ・ ECDC では、当該ウイルスの発生に備えて検査体制の強化及び予防体制の見直しを行っている。

http://www.ecdc.europa.eu/en/press/news/Lists/News/ECDC_DispForm.aspx?List=32e43ee8%2De230%2D4424%2Da783%2D85742124029a&ID=701&RootFolder=%2Fen%2Fpress%2Fnews%2FLists%2FNews

(2) 欧州疾病予防管理センター（ECDC）：北米における豚由来三重再集合体インフルエンザ A(H3N2)ウイルスに係る緊急リスク評価書を公表（2011年11月29日）

欧州において直ちにヒトの健康上の直接的な脅威となる可能性は低い。

http://www.ecdc.europa.eu/en/publications/Publications/i111129_TER_swine_origin_triple_reassortant_influenza%20A_H3N2_viruses%20in%20North%20America.pdf

(3) 米国疾病管理予防センター（CDC）：2011年11月アイオワ州でのヒトからヒトへの限定的な新型インフルエンザ A(H3N2)ウイルスの伝播（2011年12月2日）

豚への暴露歴のないアイオワ州の小児3人に当該ウイルス感染が確認された。いずれも家族にインフルエンザ様疾病患者があり、3人は同じ児童会に参加していた。この3人以外にヒトからヒトへの感染は起きていない。

<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6047a3.htm>

○関連情報（国内）

(1) 食品安全委員会：新型インフルエンザ（インフルエンザ A/H1N1）に関する情報

新型インフルエンザに関する食品安全委員会委員長の見解（2009年10月20日改正）

- ・豚肉・豚肉加工品を食べることにより、新型インフルエンザがヒトに感染する可能性は、以下の理由から低いものと考えている。
 - ① 豚肉は、従来から十分加熱するように言われていること。
 - ② インフルエンザウイルスは熱に弱く、加熱調理で容易に死滅すること。
 - ③ インフルエンザウイルスは酸に弱く、胃酸で不活化される可能性が高いこと。
- ・調理の際には、生肉は十分に加熱すること、生肉を触ったらよく手を洗うこと等衛生的な取扱いに留意すること

http://www.fsc.go.jp/sonota/mexicous_butainflu_210427.html

(2) 厚生労働省：インフルエンザ対策

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/index.html

(3) 農林水産省：豚インフルエンザについて

http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/buta_influ/

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム(<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>)をご覧ください。